

令和 3 年度
福島県 集落自主活動に係る伴走支援事業

田村市船引町瀬川地区業務実施報告書

獨協大学セガワ応援隊

[目次]	ページ
1. はじめに	1
2. 田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定	2
2.1. 田村市船引町瀬川地区の概要	
2.2. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化	
2.3. 瀬川地区の問題点と取り組むべき課題	
3. 今年度の活動実績と評価	5
3.1. ミーティングの開催	
3.2. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催	
3.3. 次年度のサポート事業への申請準備	
4. 次年度の活動計画案	15
4.1. 伝統芸能の記録&データ化	
4.2. 瀬川地区の PR に向けた SNS の活用	
4.3. 瀬川地区観光パンフレット制作	
4.4. 伝統芸能鑑賞ツアー事業化	
4.5. 空き家を活用した伝統芸能の PR	
4.6. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」継続拡大のためのサポート	
4.7. 瀬川地区物産展の継続・拡大	
5. おわりに	22

1. はじめに

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームは2017年度に「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に採択されて福島県田村市船引町瀬川地区において活動を開始した。「小さな体験活動を通し、瀬川地区の維持及び活性化に資する」という理念の元、耕作放棄地を利用したそばの作付などの活動を行っている「やってみっ会」(会長新田昭悟氏)を中心として、「結いの会」「瀬川地域づくり協議会」の皆さんと協働して、瀬川地区の集落活性事業に取り組むことになった。2018年度は「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の企画運営を行った。3年目の2019年度は獨協大学セガワ応援隊として「大学生等による地域創生推進事業」に採択されたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、申請を見送った。そして4年目となる2021年度は「大学生等による地域創生推進事業」が「集落自主活動に係る伴走支援事業」に衣替えされて、次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」への申請を目指すことになった。

田村市船引町瀬川地区を担当する獨協大学セガワ応援隊は、遠藤夏乃(代表: 経済学科 3年)、田波萌々香(副代表: 国際環境経済学科 4年)、志賀陽(副代表: 経済学科 2年)、曾根遥

香(会計: 3年)、飯村輝(会計: 経営学科 2年)、石川育実(フランス語学科 2年)、岡部将太(総合政策学科卒)、小池真愛(ドイツ語学科卒)の 4 学科 6 名と卒業生 2 名からなるチームである。

今年度は新型コロナウイルスの感染の影響で現地活動ができずに、オンラインでミーティングを重ね、次年度に向けた活動計画を詰めていった。11 月 9 日に私たちセガワ応援隊の代表学生と「やってみっ会」の代表者でオンラインミーティングを開いて、次年度の活動について意見交換を行い、伝統芸能の PR 事業を中心に据えて、現地での「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の開催に協力していく他、新たに瀬川地区のパンフレットの作成、公式 SNS アカウントの運営を主軸として活動していくという方向性にまとまった。また、12 月 6~11 日に行われた“Earth Week Dokkyo 2021~Winter~”では他の地区と合同で「地域振興応援物産展」を開催し、瀬川地区の PR だけでなくセガワ応援隊としての活動の認知度上昇、売上を上げることにより瀬川地区に収益として還元し貢献できた。

次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」への申請は、伝統芸能の PR 事業の方向性で地域住民と学生の話し合いがまとまったため、2 月 24 日締切の「地域創生総合支援事業(サポート事業) 過疎・中山間地域活性化枠(集落等活性化事業)」の②集落等再生計画策定事業への申請を目指したが、コロナ禍で例大祭において伝統芸能の奉納がコロナ前のように行われるかどうかも見通しが立たずに、学生が取材に入れるかどうか不透明であったため、令和 4 年度のサポート事業への申請を見送るという決断をした。

本報告書において、獨協大学セガワ応援隊の田村市船引町瀬川地区における今年度の活動実績について報告する。第 2 節では、田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定を今一度、確認した上で、第 3 節で今年度の活動実績を報告するとともに振り返って点検評価を行う。そして、第 4 節で次年度の活動計画案についてまとめる。

2. 田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定

2.1. 田村市船引町瀬川地区の概要

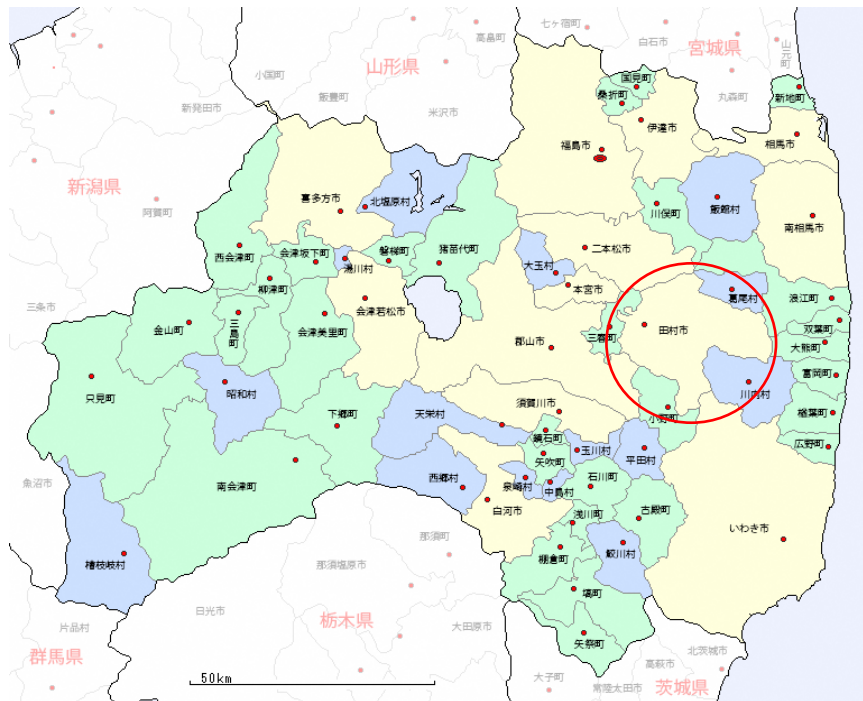
田村市船引町には、船引地区、文珠地区、美山地区、瀬川地区、移地区、芦沢地区、七郷地区、要田地区の 8 地区がある。瀬川地区は、田村市の北西部、田村市船引町の北部に位置し、船引町の中心部より北東へ 7km ほど離れ、二本松市と隣接している(図表 1 および図表 2 を参照)。面積は、約 17.73km²、標高 400m 前後の丘陵地である。また、おおむね東側には移ヶ岳(標高 994.5m)が位置している。瀬川地区は阿武隈高地に位置し、山がちな地形である。

丘陵地の大部分が森林であり、低地の部分については、田畑の耕作地である。瀬川地区の中央を移川(1 級 河川長さ 49.5km)がおおむね東西方向に流れ、これに紫川が大倉で合流し、阿武隈川へと注がれている。瀬川とは、この地方の地形から付けられた名前であり、移川、紫川の美しい流れが山間部のわずかに開けた平坦地を流れるさまを表しているという。

瀬川地区は^{かどしか}門鹿、^{にいたて}大倉、新館、石沢の 4 つの行政区で構成されている。行政区分としては

「瀬川地区」とは田村市船引町の以下の大字の住所を指している。

図表 1. 田村市と船引町瀬川地区の位置



[出典]47都道府県の地図「福島県の地図」(以下のURL)を参照。
(<https://uub.jp/47/fukushima/map.html>)

図表 2. 田村市船引町における瀬川地区の位置

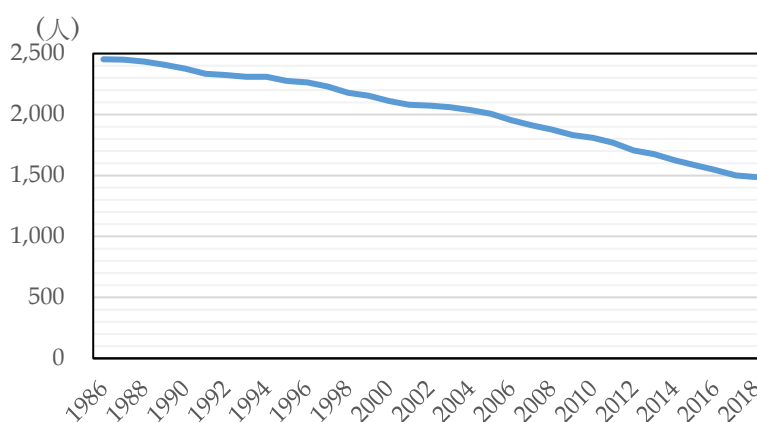


[出典]福島県「田村市の除染実施状況」(以下のURL)、Google Map より作成。
(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/tamura-201608.html>)

2.2. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化

瀬川地区における 2019(令和元)年 1 月末時点の人口は 1,438 人である。行政区分でみると、門鹿地区が 227 名(男性 108 人女性 119 人)、大倉地区 344 名(男性 170 人女性 174 人)、新館地区 426 名(男性 200 人女性 226 人)、石沢地区 441 名(男性 217 人女性 24 人)である。図表 3 には 1986 年以降の瀬川地区の人口推移を掲載しているが、瀬川地区の人口は 1986(昭和 61)年の 2,453 人から 2006(平成 18)年には 2000 人を切り、2018(平成 30)年には 1,500 人を切って 1,487 人となり、約 30 年間で約 1000 人も人口が減少しており、人口減少に歯止めがかからない状態である。

図表 3. 1986 年以降の瀬川地区の人口推移



[出典]「瀬川の人口及び世帯数の推移」『住民基本台帳』より作成。

2.3. 瀬川地区の問題点と取り組むべき課題

私たちの先輩の米山チームが 2017 年度に現地調査を実施し、瀬川地区の抱える問題を次のように集約した。設定した課題は以下の通りである。

■瀬川地区の抱える問題

- (1)地域コミュニティが崩壊しつつある。地域住民の交流の場がない。
- (2)瀬川地区に働き口、収入源がない。
- (3)外部の人が瀬川地区を訪れる理由がない。
- (4)空き家、耕作放棄地が増加している。

このような問題の整理から取り組むべき課題を以下のように抽出している。

■取り組むべき課題

- (1)地域住民の交流する場を増やし、日常生活に対するサポートを提供する。
- (2)収入を発生させる仕組みをつくる。
- (3)外部から注目してもらい、立ち寄ってもらい、交流人口を増す。

この課題に対して 2018 年度、2019 年度は「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」開催に協力してきたが、2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて開催が中止となった。今

年度も「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」は中止となった。2020年度は4地区の神社のうち、かろうじて石沢と大倉では秋の例大祭に舞が奉納されたが、今年度はいずれも神社での舞の奉納は中止となった。

今年度は、秋の例大祭の舞の奉納も新そば収穫祭も中止となる中で、実際に瀬川地区を訪れるという意味での交流人口を増加させる活動は難しいと判断した。そこで、瀬川地区以外の人々と瀬川地区の人々を繋げるという方向で今年度の目標設定を行い、ミーティングの実施と物産展の開催を行った。次節では、この事業内容について詳細な活動報告を述べる。

3. 今年度の活動実績と評価

2021年度はコロナ禍のため、前年度に引き続き「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」は開催中止となり、実際に現地に入って活動することができなかった。したがって、今年度の活動は、学内における全9回にわたるミーティングと「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”」において地域振興支援物産展を開催して、次年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」への申請企画案を議論した。

3.1. ミーティングの開催

今年度メンバーは活動未経験者が多かったため、瀬川地区の「やってみっ会」のメンバーとのコミュニケーションをとったり、2019年度までの活動についてお話を伺った。また、学内でのミーティングは感染状況が比較的落ち着いていた時期は、対面でミーティングを行い、状況に応じてミーティング形式はオンラインと対面を併用した。図表4のとおり、ミーティングを通じてイベント開催や「あなたの描く理想の里山」提出作品について打ち合わせを行ったり、来年度の活動計画について企画案をブラッシュアップしていった。

図表 4. 2021 年度活動報告:ミーティング記録

日付	内容	参加者
第1回 2021/8/10 オンライン	今年度キックオフ・ミーティング 初顔合わせ・自己紹介	学生:5名 教員:1名 集落:5名
第2回 2021/8/15 オンライン	役職決め 申請書作成	学生:5名
第3回 2021/10/28 対面(学内ク レアス)	新型コロナウイルス感染状況に応じて現地入りに向けた話し合い 来年度の事業計画案を学生メンバーで練る。 【セガワ応援隊公式 SNS】 ねらい: 若者層へのアピール 方法: インスタグラムを学生がプロデュース。 写真は現地の方から提供していただく。何かプレゼントを用意できると参加者が増えるのではないかな。	学生:5名

	<p>【空き家リノベーション】</p> <p>ねらい: 宿泊施設を増やし集客&雇用確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に提供（ゼミ合宿など。セガワ応援隊の現地活動の拠点にもできる?） ・農業体験とセットプラン（家族向け）→リモートワークの増加で移住ブームの今取り組みたい 	
<p>第4回 2021/11/9 オンライン</p>	<p>地域の皆さんに現地の様子や学生に期待するサポートについて調査する。</p> <p>学生が考えた事業案についての地域の皆さんの意見を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、事業案についての意見交換（学生案） ・SNS→写真の提供、プレゼント（はちみつやお米等）ともに承諾していただいた。 ・空き家→相続問題がある。もう使われていない木造校舎をリノベはどうか。 ・マルシェの改良→どうすれば瀬川内外にこのイベントを広められるか。（瀬川案） ・外から見た瀬川地区の良さを発信してほしい ・SNS運営（景色や特産物、伝統文化） ・パンフレット制作（多言語化、移住資料にも） 	<p>学生:2名 集落:5名</p>
<p>第5回 2021/12/2 対面</p>	<p>12月6～10日「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”」における「地域振興支援物産展」の準備</p> <p>「あなたの描く理想の里山」作品案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物産展について：概要、日程の説明&確認 ・あなたの描く理想の里山の個人案発表 ・再生エネルギーの聖地に（遠藤） ・大学生の活動の様子を（志賀） ・里山内部に住む人々のつながりを（曾根） ・食と人とのつながりを（石川） ・瀬川地区についてのプレゼン（小池）→現地活動をしたことのないメンバーに向けて田村市の魅力が詰まったプレゼン資料を制作し、発表（小池） 	<p>学生:5名</p>
<p>第6回 2021/12/20 オンライン</p>	<p>「あなたの描く理想の里山」作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山ならではの温かみのある作品に作品の方向性決定 ・過去の活動写真をモデルに手書きでの制作を委託（石川） 	<p>学生:3名</p>
<p>第7回 2022/1/11 オンライン</p>	<p>「あなたの描く理想の里山」の講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手書きにした意図が分からない ・写真でもよかったのではないか ・チームで1つではなく複数提出もできた <p>報告書の作成について</p>	<p>学生:4名 教員:1名</p>
<p>第8回 2022/1/20 オンライン</p>	<p>報告書作成の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは各担当を決定し、アウトラインの作成 ・写真は多い方がよいのでたくさん撮影しておくべきであった 	<p>学生:6名 教員:1名</p>

	瀬川地区の皆様とのミーティング日程調整	
第9回 2022/1/26 オンライン	<p>来年度のサポート事業計画案について瀬川地区の方々と計画策定</p> <p>[学生案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット制作、伝統文化の記録、データ化（遠藤） ・空き家と伝統芸能を結び付けた事業（志賀） ・イラスト入り資料の制作、行事開催時のツアー設定 ・神社等の補修工事に若手の宮大工を起用（小池） ・伝統芸能のキャラクターを作り LINE スタンプ制作（石川） →伝統文化を主軸にしてサポート事業を展開 <p>[集落案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作製や SNS 等の情報発信をメインに、伝統文化も含め瀬川地区の PR <p>[留意すべき点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能は神事であること ・お祭りの時期に限定される。練習を含めて2週間ほど。 ・空き家の相続問題→民家ではなく既に使われなくなった木造校舎ならどうか ・まだ現メンバーは現地調査ができていないことに加え、感染症の状況により予定が組みづらいことから来年度に現地調査を含めて事業計画をしっかりと練る。 <p>[申請事業]過疎・中山間地域活性化枠を予定（申請時期未定）</p>	<p>学生:4名 教員:1名 集落:5名</p>

集落の方々とのミーティングに関して事前にミーティングの目的をまとめて筋道を立てて進められたことは評価できる。また、時間のない中、物産展の準備や提出作品を完成させることができたのはメンバーの協力があったことだと思う。しかし、本来であれば次年度の開始後すぐにさまざまな企画を実行していくために綿密な準備を行うべきであったが、現地での活動経験のないメンバーが多数を占めているためなかなかうまくはいかず、次年度、サポート事業に申請することができなかった。反省点としては参加者にばらつきが生じていることや連絡不足もあり、どうしてもコミュニケーション不足が解消されずスムーズにミーティングが行えていなかったことがあげられる。

ミーティング日時を不定期ではなく、あらかじめ設定しておくことで参加者を増やすことでメンバー間のコミュニケーション不足を解消することやほかの地域のチームとも合同ミーティングを開催し、刺激を受けることで、より意欲的に取り組めるのではないだろうか。また、他のチームの活動を知ること、瀬川地区にも通ずる課題や活動企画が思い浮かぶ可能性もある。次年度に活動するメンバーにはこのような点を取り入れて活動してもらいたい。

3.2. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催

本学では夏季6月と冬季12月の年2回、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」を開

催している。12月6日(月)～11日(土)に開催された“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”において、図表5のとおり、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に参加している本学の他の3グループと合同で地域振興応援物産展を開催し、セガワ応援隊は6日(月)～10日(金)の5日間の昼休みの時間帯に瀬川地区の農産物や特産品を学内外の来場者に販売した(写真1)。図表6は合同物産展のポスター・チラシ、図表7はセガワ応援隊の販売実績である。

図表5. 地域振興応援物産展の開催

実施企画名	獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催
開催日	2021年12月6日(月)～12月10日(金) 昼休み(11:30～13:00)
開催場所	獨協大学学生センター雄飛ホールの北側、および雄飛ホール北側外の親水護岸の上
企画概要	<p>次の3つの目的を掲げて Earth Week Dokkyo 2021～Winter～において地域振興応援物産展を開催し、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の他のグループと合同で出品し、瀬川産の農産物や特産品(エゴマ油、そば粉、はちみつ、キウイフルーツ、アピオス、ハヤトウリ、サトイモ、米)の販売を行った(写真2)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田村市船引町瀬川地区に対する認知度を向上させる。 ・ 獨協大学セガワ応援隊の認知度も向上させる。 ・ 田村市船引町瀬川地区の特産物を通し、瀬川地区や本事業に対する興味を持ってもらう。 <p>企画内容は以下の通りである。</p> <p>福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に採択されている4つの集落では、過疎化や高齢化が進み、集落の活性化が喫緊の課題となっている。これに対して私たち獨協大学の4グループは、よそ者である外からの客観的な視点、若者である大学生の新しい視点や行動力を活用して集落の活性化に向けて取り組んでいる。このような獨協大学の取り組みを一人でも多くの学生に知ってもらい、学内でこの事業を継承していきたい。また福島県の農産物の安心安全を広く認識してもらいたい。</p> <p>本学で福島県や地元草加・越谷の農産物・特産物を販売することによって、これらの地域をPRしたい。また、さまざまな地域で活動している学生メンバーが一堂に会して物産展を開催することで、各地域の枠を越えたヨコの繋がりを創出していきたい。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の開催、そして2年ぶりの開催であったが、無事開催することができた。 ・ 前日にチラシを近隣住民に届けた広報が功を奏し、感染対策のため、学外の方は外での販売になったが、それでも多くの来場者に来ていただい

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落の方々にお話し、作っていただいたレシピをもとに案内することで、来場者の方々が購入しやすくなった。 ・獨協大学周辺の地域住民の瀬川地区に対する認知度向上に貢献することができた。 ・学生も手に取りやすい価格設定であったため、学生が購入してもらうことができた。 ・物産展の売上を瀬川地区に還元することができた。 ・他の地域活性化プロジェクトチームと意見交換ができた。
<p>今後の課題・展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者に瀬川地区、販売している物品の説明やセガワ応援隊の活動をPRできるようなリーフレットを事前に作成しておくべきであった。 ・袋に入ったままの商品の撮影は袋が光ってしまって商品がきれいに撮影できなかった。宣伝としてSNSにアップしたり報告書に掲載するための写真撮影は、商品を一度袋から出して撮影するとよかった。 ・Earth Week Dokkyo 期間だけでなく、雄飛祭など開催日を増やす。 ・定期開催をすることで、商品を販売するだけでなく、活動も知ってもらいたい。 ・今回は、コロナ禍のため、学内での販売であったが、次年度は「獨協大学前」駅や松原団地記念公園での開催も検討する。 ・今年度は一度も現地に行けず、販売をすることになったが、現地で生産者の方々と話し、商品の知識・商品ができる過程を学んだ上で販売する。 ・「そば粉」については自分たちで現地へ行きそば打ちをし、麺の状態にして販売することも検討する。

図表 6. “Earth Week Dokkyo 2021~Winter~”地域振興応援物産展のポスター・チラシ

Earth Week Dokkyo 2021 Winter
地域振興応援物産展

12/6日から開催

越谷市
 米、大根、ニンジン、里芋、
 キャベツ、レタス、白菜、
 イチゴ、ネギ
 など...

田村市瀬川地区
 そば粉、ハチミツ、キウイ、
 里芋、小松菜、エゴマ油、
 など...

12/7日から開催

南会津町耻風地区
 そば粉、赤カブ、
 シイタケ、リンゴ

小野町谷津作地区
 黒ニンニク、揚げたまご、
 ぬれ花豆、サトパン
 小野高校のバトンクッキー

喜多市本村地区
 そば風味蒸しドーナツ

12/9日から開催

草加市
 じゃがいも、八つ頭、カブ、
 さつまいも、たまねぎ、
 ミトマト

※売り切れ次第終了！お早めに！

場所：獨協大学学生センター雄飛ホール内
 開催日時：12/6(月)~12/10(金)
 11時30分から13時00分

図表 7. 地域振興応援物産展のセガワ応援隊の販売実績

品目	単価	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)	10日(金)	販売個数	売上高
そば粉	¥600			1	2	7	10	¥6,000
ハチミツ	¥1,500	4	5			1	10	¥15,000
キウイフルーツ	¥300	3	2	1	2	2	10	¥3,000
アピオス	¥100	2	3				5	¥500
ハヤトウリ	¥100		8	1	1		10	¥1,000
里芋	¥100		4		5	1	10	¥1,000
七分米	¥1,000				1	9	10	¥10,000
エゴマ油(生)	¥500	4	3	2	1		10	¥5,000
エゴマ油(焙)	¥500	6	2		2		10	¥5,000
		¥12,100	¥12,100	¥2,000	¥4,900	¥15,400		¥46,500

写真 1. 地域振興応援物産展の開催風景

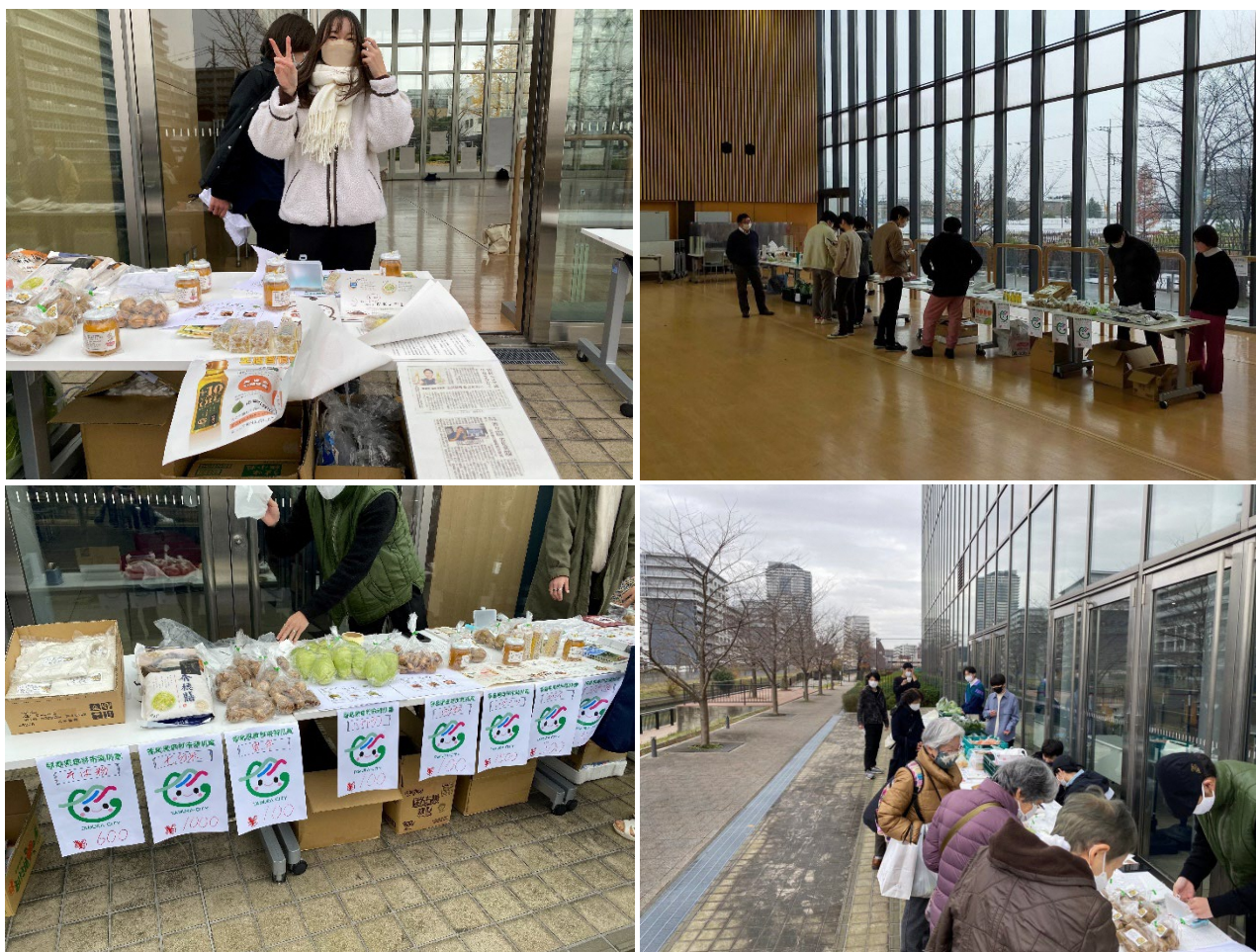


写真 2. 地域振興応援物産展での販売商品と説明資料



ハチミツ



キウイフルーツ



ハヤトウリ



アビオス



里芋



そば粉



七分米(玄米を70%に削った健康に配慮したお米)



エゴマ油の販売に使用した資料

3.3. 次年度のサポート事業への申請準備

■瀬川地区の貴重な地域資源:伝統芸能

瀬川地区の4つの行政区、石沢、新館、大倉、門鹿の地区に、それぞれ秋の例大祭に神社に奉納される伝統芸能がある。鹿島・熊野神社に奉納される「石沢の三匹獅子舞」、新館神社が奉納される「新館の太々神楽」、大倉神社に奉納される「大倉の太々神楽」、王子神社・古室神社に奉納される「門鹿の太々神楽」があり、「石沢の三匹獅子舞」、「大倉の太々神楽」は「田村市指定無形民俗文化財」にも指定されている。

以下の写真3「秋の例大祭に奉納される伝統芸能」および写真4「秋の例大祭伝統芸能鑑賞ツアーのコースの一例」に掲載している写真は、2018年の秋季例大祭に、当時田村市地域づくり推進員(専任集落支援員)をされており、のちに瀬川地区の代表区長を務められた佐々木正和氏が撮影したものをご提供いただいたものである。

写真 3. 秋の例大祭に奉納される伝統芸能



「石沢の三匹獅子舞」(鹿島・熊野神社)



「新館の太々神楽」(新館神社)



「大倉の太々神楽」(大倉神社の神楽殿)



「門鹿の太々神楽」(古室神社・王子神社の神楽殿)

地元では保存会の皆さんが、神楽を舞う小学生を指導しているが、小学生も少なくなって、維持が課題になっていた。これに新型コロナウイルス感染が追い打ちを掛けている。2020年

度にはコロナの影響で、「石沢の三匹獅子舞」、「大倉の太々神楽」のみ奉納されたが、他の神社では奉納が取り止めとなり、2021年度はいずれも中止となった。コロナ禍では子どもたちの神楽の練習もできないということで、伝統芸能の維持・継承にとって非常に厳しい状況が続いている。

私たちの先輩は2017年度「自然豊かで、素晴らしい伝統文化を持つ瀬川地区」にて、「地域コミュニティの活性化をはかり、「瀬川プライド」を醸成し、「住んでよし、訪れてよし!」を目指し、「住み続けたい」、「退職後は戻りたい」、「移り住みたい」と思える地区にしていこうという目標を掲げた。

この目標に照らして、伝統芸能を継承して、活性化させていくことで、子どもたちに地元への愛着を醸成し、この自然と文化の豊かな瀬川地区の担い手となってくれると考えた。そのために、私たちセガワ応援隊が今後、取り組むべき課題を以下のように整理した。

■セガワ応援隊の今後の課題

- ・ 伝統芸能の三匹獅子舞や太々神楽をどうやって維持していくか。
- ・ 外から見た瀬川の良さを学生ならではの視点でアピール→SNSを積極的に活用
- ・ 瀬川地区内部の交流を盛んに→引き続き、「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」のサポート&改善
- ・ 空き家や耕作放棄地の活用を考案

そこで、これらの課題に向けて、オンライン・ミーティングにより次年度以降の活動の方向性が、伝統芸能のPR事業で「やってみっ会」のメンバーと学生の議論がまとまり、以下のような企画案が出された。

■伝統芸能を活用した集落活性化企画

- ・ 伝統芸能の記録&データ化
- ・ SNSや物産展を活用し、地域の特産品や伝統芸能を情報発信
- ・ 瀬川地区観光パンフレット制作
- ・ 秋の例大祭に奉納される伝統芸能鑑賞ツアーの事業化
- ・ オリジナルキャラクターを制作して伝統芸能に親しみやすさを
- ・ 空き家の有効活用と伝統芸能を結び付けた事業
- ・ 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」のサポートと大学で開催する物産展の継続

これらをもとに、令和4年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」へ申請する事業実施計画書のアウトラインを図表8のようにまとめた。

図表 8. 2022(令和4)年度事業実施計画書

(1)瀬川地区の伝統芸能に関する事業	対象の伝統芸能:「石沢の三匹獅子舞」、「新館の太々神楽」、「大倉の太々神楽」、「門鹿の太々神楽」 ・ 以上の伝統芸能の記録、データ化を行う。 ・ 神社の修繕を行う際、宮大工育成の場として提供する。
--------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能と空き家の活用を結びつけた事業を行う。 ・オリジナルキャラクターを制作する。 →SNS やパンフレットに使用し、伝統芸能の親近感を強めるねらい。 ・伝統行事開催時のツアー開催
(2) 瀬川地区の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS を活用し、現地の情報発信 Instagram を主に使用し、写真やイラストで情報発信を行う。 ・瀬川地区観光パンフレット制作 <p>掲載内容：観光情報、伝統芸能や地区の歴史について、また移住に関する情報</p>
(3) 瀬川地区産の特産品販売イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で行われるマルシェのサポート 運営団体：やってみっ会主催、瀬川地区区長会、結いの会、瀬川地域づくり協議会共催 ・獨協大学で開催される物産展（Earth Week Dokkyo における地域振興応援物産展）の継続 →学内外の瀬川地区に対する認知度の向上と獨協セガワ応援隊の認知度の向上を目的とする。瀬川地区の特産物を通し、瀬川地区という地域や本事業に対する興味を促す。 <p>特産品例：エゴマ油、そば粉、はちみつ、アピオス、ハヤトウリ、お米、サトイモ</p>

以上の事業実施計画が固まったところで、福島県県中地方振興局企画商工部地域づくり・商工労政課の金子大知氏に電話で申請の事前相談を行った。「サポート事業 過疎・中山間地域活性化枠(集落等活性化事業)」②集落等再生計画策定事業で申請予定であるとお話したところ、次年度はコロナ禍でも実施できる事業計画でないと採択は難しいと指摘を受けた。コロナ禍で仮に学生が現地に入れなくても、現地の「やってみっ会」のメンバーで動画や写真を撮影できれば、それを学生が使って動画編集したり、パンフレット制作はできるが、そもそもコロナ禍で秋の例大祭の開催の目途が全く立たないため、伝統芸能のPR や伝統芸能鑑賞ツアーの企画策定の作業さえも見通しが立たない。

もしコロナ禍で例大祭で三匹獅子舞や太々神楽が中止となった場合には、過去の動画や過去の写真を使って動画編集やパンフレット作成を行う計画もあると説明すると、それではもったいないのではないか、というご意見もいただいた。以上のようなご指摘を受けて、サポート事業申請直前まで議論を詰めてきたが、令和4年度「地域創生総合支援事業(サポート事業)過疎・中山間地域活性化枠(集落等活性化事業)」への申請は見送るという判断に至った。

また金子氏からは、福島県の「集落自主活動に係る伴走支援事業」と「サポート事業 過疎・中山間地域活性化枠(集落等活性化事業)」の②集落等再生計画策定事業で両方の予算を

使って、集落等再生事業の計画策定を進めていくのも問題があるのではないか、というご指摘もいただいた。これについては、福島県の地域振興課の吉田大智氏に相談したところ、県の「集落自主活動に係る伴走支援事業」と「サポート事業」の両方に予算を使うことは、計画が具体化できていて棲み分けが明確であれば問題ないはずであるとお話であった。私たち事業実施計画がまだ具体化できていなかったことがそもそも問題であった。

以上の判断により、もう1年、「集落自主活動に係る伴走支援事業」でサポート事業への申請企画を練って、令和5年度の「サポート事業 過疎・中山間地域活性化枠(集落等活性化事業)」の採択を目指すこととするという結論で、「やってみっ会」の皆さんにご理解をいただいた。

したがって、次年度の「集落自主活動に係る伴走支援事業」の中で、今回申請を目指した「伝統芸能のPR事業」という企画案を具体化させていくと同時に、コロナの感染状況も見極めながら、コロナ禍でも実施可能な新たな事業計画も模索していきたい。次節では、次年度のセガワ応援隊の活動計画案についてまとめていく。

4. 次年度の活動計画案

4.1. 伝統芸能の記録&データ化

瀬川地区には石沢、新館、大倉、門鹿の地区ごとに、秋の例大祭に神社に奉納される伝統芸能が存在する。これらの伝統芸能は瀬川地区の観光資源となりうるため、アピールしていきたいと考えている。しかし、地元で保存会の皆さんが神楽を舞う小学生を指導しているものの小学生の数も少なくなり、どのように歴史ある伝統芸能を維持していくかは、深刻な課題となっている。神楽を舞う集落の小学生の人数が減少傾向にあることに加え、今年度はコロナ禍で秋の例大祭は役員のみで実施され、太々神楽や三匹獅子舞など舞の奉納は実施されなかった。コロナ禍で開催すらも危ぶまれる状況で、このままでは途絶えてしまう。

文化は忘れられてしまったときに本当に失われてしまう。そこで、図表9の4つの伝統芸能を対象として、図表10のとおり、伝統芸能を記録に残しデータ化することを提案する。

図表9. 記録&データ化対象の伝統芸能

伝統芸能	神社	概要
石沢の三匹獅子舞 無形民俗文化財	石沢鹿島・熊野神社	<ul style="list-style-type: none"> ・11月3日の秋季例大祭で奉納される三匹獅子舞 ・田村市指定無形民俗文化財に指定。「通りの舞」、「宿入れの舞」、「そぞろきの舞」、「花粋の舞」、「歌の切りの舞」、「しまいの舞」の6種目が行われている。所要時間としては30分に及ぶ。県外からの来場者も多いということである。
大倉の太々神楽 無形民俗文化財	大倉神社	<ul style="list-style-type: none"> ・11月第1土曜日の秋季例大祭で奉納される神楽 ・素面で舞う小神楽、面を用いて舞う大神楽を合わせて36座が伝承

		・明治初期、田村地方で神楽の師匠として活躍した國分大隅(大倉神社神)から習い受けた大隅流神楽
新館の太々神楽	新館神社	・秋季例大祭で奉納される神楽 ・櫓を組んで舞台を作る
門鹿の太々神楽	古室神社・王子神社	・春・秋季例大祭で奉納される神楽

[出典]田村市ホームページ「田村市指定無形民俗文化財」(以下の UPL)より引用。
<http://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/30/minzoku-geino.html>

図表 10. 伝統芸能の記録&データ化の企画案

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能それぞれの起源や内容を詳細に記録することで伝統芸能の消滅を防ぐ。 ・記録をデータ化することで、伝統芸能の PR などにも使えるようになる。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・仮に一時的に継承者不足によって文化が途絶えてしまったとしても、記録を残しデータ化しておくことで、復活させることができるのではないかと。
具体的な企画案	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の例大祭開催時に現地に入り映像を残す。 ・集落の方々に協力してもらい、資料やお話から伝統芸能に関する情報を可能な限り詳細に Word 等にデータ化して残す。 <p>※これらは観光資源となりうる伝統芸能で地域の PR にも活用できる。</p>

4.2. 瀬川地区の PR に向けた SNS の活用

セガワ応援隊では、図表 11 に示した Instagram と Twitter の 2 つのアカウントを運営している。2019 年から運営が開始したが、2020 年以降投稿がなされていない。

図表 11. セガワ応援隊の SNS

segawaouentai + ≡

 **セガワ応援隊**
 @segawaouentai

7 投稿 43 フォロワー 12 フォロー中

獨協大学セガワ応援隊
 福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」獨協大学セガワ応援隊です！福島県田村市瀬川地区の情報を発信します🐦【第2回新そば収穫祭&軽トラマルシェ 11/17(日) 瀬川住民センターにて開催！】 #福島県 #うつくしまふくしま

セガワ応援隊
 @segawaouentai

福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」獨協大学セガワ応援隊です！福島県田村市瀬川地区の情報を発信します🐦 #福島県 #うつくしまふくしま

📍 福島県田村市

📅 2019年10月からTwitterを利用しています

4 フォロー中 8 フォロワー

2021年11月9日の集落の方とのミーティングの際に SNS 運営について、意見交換をおこなった。集落の方の「外から見た瀬川地区の良さを発信してほしい」という意見から、瀬川地区の景色や特産物、伝統文化を発信していくことを検討している。景色や特産物については、現地の方だけが知る情報や豆知識を添えて投稿する。また、特産物を載せる時は販売サイトも一緒に載せるようにする。YouTube など動画コンテンツを活用し、瀬川地区の神楽を躍動感がある形で紹介する。

コロナ禍でなかなか現地に行けないが、集落の方に現地の写真を提供していただくことは承諾していただいた。また、現地や SNS においてアクションを起こしていただいた方に、ハチミツやお米等のプレゼントを提供することも承諾していただいた。

4.3. 瀬川地区観光パンフレット制作

田村市全体においては、田村市内の観光地や特産物などを PR し、市内に点在する観光地等の周遊促進を目的とした図表 12 の田村市周遊観光パンフレットがある。しかし、瀬川地区に限定されたパンフレットはない。また、田村市のパンフレットは多言語化されていない。

図表 12. 田村市周遊観光パンフレット



[出典]福島県田村市ホームページ「田村市周遊観光パンフレットを作成しました」(以下の URL)
(<https://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/18/syuyupamphlet.html>)
福島県田村市観光サイト「田村市周遊観光パンフレットを作成しました！」(以下の URL)を参照。
(<https://visit-tamura.jp/category/news/>)
(最終閲覧日:2022年2月26日)

そこで、瀬川地区に限定したパンフレットを作成し、瀬川地区の景色や特産品、伝統文化の紹介を行い、本学で翻訳スタッフを募集し、多言語化を図ることで、国内だけでなく国外に対しても広報していく。

4.4. 伝統芸能鑑賞ツアー事業化

図表 13 のとおり、首都圏から秋の例大祭に奉納される伝統芸能を巡る鑑賞ツアーを企画する。伝統芸能・民俗芸能の興味・関心のある人々に鑑賞ツアーに参加してもらうことにより、交流人口を増やすことはもとより、この鑑賞ツアーをきっかけとして、地域住民と触れ合うような仕組みを作り、地域のファンになってもらい、リピーターとなってもらう。このことにより、伝統芸能を維持・継承していくという課題を共有し、地域住民と一緒にこの課題に取り組んでもらう、関係人口となることをねらっている。

図表 13. 瀬川地区・秋の例大祭伝統芸能鑑賞ツアー

<p>企画の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットとターゲットの求める内容を考えたうえ、伝統芸能鑑賞ツアーを組む。もしくは、参加者の興味ややってみたいことから、ツアー内容をカスタムしてもらえようにする。 <p>【ターゲットになり得る層】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方の行事に興味がある方 →参加したい/鑑賞したい ・伝統芸能体験をしたい家族 →子どもに体験させたい/家族全員で体験したい ・カメラが趣味の方 ・伝統芸能を見てみたい外国の方
<p>期待される効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りに対しての思いを感じてもらい、体験で楽しんでもらう、地域の良さを発掘してもらい。 ・その場だけの体験ではなく、家に帰ってからもなにか再体験できるような内容があると思入れが深くなるのではないだろうか。 ・2度目の訪問をしてもらうために、地域の方とのつながりを作る仕組みも入れるとよいかも。
<p>具体的な企画案</p>	<p>ツアー内容については以下のようなものを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備体験（儀式道具の修繕、食事準備など） ・演奏体験（笛、太鼓など） ・伝統芸能鑑賞（事前ガイド、当日ガイド付きなど） ・地区散策（徒歩、サイクリングなど） ・地元の方との交流（帰省のようなアットホームな雰囲気） ・お土産付き（特産品、体験キットなど）

写真 4 のように、神社に奉納する当日の集落の子どもたちの緊張した面持ちに触れたり、大倉神社、古室神社・王子神社では神楽殿に上がって鑑賞していただくような特別コースも

鑑賞ツアーの売りになると思われる。

写真 4. 秋の例大祭伝統芸能鑑賞ツアーのコースの一例



「石沢の三匹獅子舞」を奉納する集落の子どもたち



大倉神社境内の神楽殿で奉納される「大倉の太々神楽」



古室神社・王子神社の神楽殿で奉納される「門鹿の太々神楽」

4.5. 空き家を活用した伝統芸能のPR

瀬川地区の4行政地区の石沢、新館、大倉、門鹿それぞれの伝統芸能と、現在地域で問題として取り上げられている空き家を掛け合わせて、図表14に示したように、空き家を宿泊施設へとリノベーションし、「見て楽しい！体験して楽しい！伝統芸能堪能ツアー」を提案する。図表15は1泊2日のツアーの概要である。

空き家は現在、相続問題により自由に活用できる状態ではないが、問題が解決すれば、地域には協力的な大工の方々がいるためリノベーションの援助を行ってもらえる予定である。いくつか課題はあるが、これらの課題を乗り越え、地域住民にも愛されるような施設を開発することを提案したい。

図表 14. 空き家×伝統芸能

企画の概要	空き家を宿泊施設へとリノベーションし、瀬川地区に訪れた観光客が1泊2日の中で伝統芸能に触れることができるようにする。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家をリノベーションした施設が地域を訪れる方々に対して、瀬川地区の情報発信のアンテナショップのような役割を果たすとともに、訪れた人同士の交流の場となる。 ・伝統芸能は神事であるため、神楽や舞の日は決まっているが、わざわざ秋の例大祭に合わせて訪れて神楽などを観なくても、年中、いつ来ても、伝統芸能を知り、楽しめる。
具体的な企画案	<p>2階建て空き家をリノベーションして宿泊施設を作る。1階に受付、地域住民の方のハンドメイド作品や特産品を販売するショップ、cafeスペース、蕎麦打ちなどの体験施設、観光客同士や、地域住民の交流できるスペースを設置し、2階部分を宿泊スペースとする。</p> <p>お風呂については、地域にある温泉施設と提携して、そちらをオススメし、施設には簡易的なシャワーを設置する。また、cafeスペースに関しては、交流スペースと共用でも良いと考えており、宿泊者ではない方でも利用できるようにする。</p> <p>施設には伝統芸能を堪能できる仕組みを作る。まず、1階部分の受付やショップ、交流スペースから目の届く壁にプロジェクターで伝統芸能のビデオを再生する。また、近くには簡単な説明文や実際に神楽で着用されている衣装などを展示する。ショップには、伝統芸能にゆかりのあるキーホルダーなどの商品を開発し、陳列・販売する。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リノベーション候補の空き家が相続問題によっていつリノベーションし始めることができるか、見通しが立っていない。 ・神社によってはすでに壊れたり、取り壊されたりしており、補修・再建が必要である。 ・宿泊施設の運営体制についてまだ検討を始めている。普段は誰が運営するのか、従業員を雇用するのか。

図表 15 「見て楽しい！体験して楽しい！伝統芸能堪能ツアー」1泊2日の概要

1日目	2日目
12:00 施設到着	8:00 朝食
12:00～13:30 空き家にてチェックイン、昼食	9:30～フットパスで神社めぐり
14:00～フットパスで神社めぐり	12:00 青空の下で昼食
16:30 施設に戻ってくる	チェックアウト
18:30～夕食	
20:00～地域の方やとの交流・衣装を着る体験	

4.6. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」継続拡大のためのサポート

2019年度に開催された「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」には、コミュニティカフェ「喫茶セガワ」も開設し、地元の方々の交流の場になった。今後も、モノを通じて人と人が繋がることのできる場を今後も作ることが大切だと考えた。その際には、過去の「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の経験を活かして、継続拡大していく必要があると考え、図表 16 のようにサポート案をまとめた。

図表 16. 「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」継続拡大のためのサポート

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬川地区で作られた農産品・特産品・陶芸品・木工品を販売する。 ・子供の参加が多かったので、子供向けに絞るのも1つかと思った。 ・小学校などに宣伝して、子ども受けがよさそうなものも売る。 <p>(例：木などで作ったおもちゃ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ方や実食できる試食なども用意する。 <p>(新型コロナウイルスの影響を見ながら検討する必要がある)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場されたお客様にマルシェや室内のイベントの地図と内容をまとめたパンフレットのようなものを作成してはどうだろうか。 ・それぞれの軽トラに説明や写真などの載った壁新聞があればいいのではないか。 ・椅子など実用的に使える道具を作成するべきだと考える。 ・前回、軽トラマルシェとコミュニティカフェ「喫茶セガワ」の場所が遠く離れており、別物になっていたが、気候の良い季節ならば瀬川カフェを屋外で開催し、それを取り囲むようにマルシェを開催すればどちらかのついでにどちらかに寄ってくれる率が高くなると思う。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・訪れた観光客は、今まで知らなかった瀬川の魅力に出会うことができる。 ・来場者は1か所でさまざまな商品に触れることができる ・瀬川地区に住む地元住民の方々にとっては、地元の魅力の再確認に繋がる。

4.7. 瀬川地区物産展の継続・拡大

今年度の取り組みとして、獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”において地域振興応援物産展の開催を行った。これは、瀬川地区で生産されたものを販売することで、大学生や獨協大学の周辺住民に瀬川地区を知ってもらうことを目的に実施したものである。今年度は物産展で販売した農産品・特産品を完売することができた。次年度以降は、図表 17 のような改善を行い、広報の方法を改善しつつ、より多くの方々に瀬川地区を知ってもらうきっかけとして活動を拡大していきたいと考えている。

図表 17. 瀬川地区物産展の継続・拡大

<p>企画の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬川地区で作られた農産品・特産品を販売し、その商品を通じて瀬川地区を知ってもらう。 ・子ども連れの方が数人いらっしゃったので、子ども受けがよさそうなものも売る。 ・食べ方や実食できる試食なども用意する。(新型コロナウイルスの影響を見ながら検討する必要がある) ・来場されたお客様が、他の地域の食材と比較して購入する場面が多くあったので、商品の価格や特徴をまとめたパンフレットのようなものを作成することで、より瀬川産の特産品の差別化が図れると思う。
<p>期待される効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者(大学生や獨協大学の周辺住民)は、なかなか出会うことのできない商品に触れることができる。 ・大人から子どもまで幅広い年齢層の方に商品を手に取ってもらうことができる。 ・瀬川地区の方々にとっては、地元の魅力を広めることができる。 ・首都圏消費地の人々のニーズを知ることができる。 ・「当たり前」と思っていたモノに対する認識が変化する可能性がある。

5. おわりに

獨協大学セガワ応援隊は、2017年度、2018年度、2019年度に続いて、4年目となる2021年度の事業をオンライン・ミーティングを中心として活動した。コロナ禍で、現地活動にも入れず、消化不良であったことは否めないが、次年度もこれまでの活動から継続して地域コミュニティの活性化をはかりつつ、物産展で取り扱ったエゴマやそばなど、豊かな農産品のPRや伝統芸能のPRを通して、外部への働きかけに力を入れていきたい。

令和4年度の「地域創生総合支援事業(サポート事業)」への申請を見送ることになったのは、現地に入って活動ができずに、企画案を具体化することができなかつたことが大きかった。次年度はコロナ禍で直ちに現地活動に入ることは難しいかもしれないが、現地とはオンライン、学内では対面も併用したミーティングを行いながら、現地に入れる目途が立ったら速やかに現地活動を敢行したい。実際に、セガワ応援隊のメンバーが現地に入って動画や写真を撮影して来て、実証実験としてお試しで動画編集したり、写真をパンフレット企画に貼り付けてパンフレット作成企画の企画書を作るということをやりたいと考えている。

ただし、コロナの状況によって、学生の現地活動ができないままに時間が過ぎていくことも想定しなければならない。もしそうだと、再びサポート事業への申請企画を具体化できないまま、次年度の「大学生と集落の協働による地域活性化事業」が終わりとなり、セガワ応援隊の活動はそこで終わってしまう。したがって、次年度のメンバーは2022年度が最後の1年になるかもしれないと思って、背水の陣で、学生の現地活動ができない場合や例大祭の中止を見極めて、サポート事業の申請採択を目指すということで、実現可能性の高い企画案をまとめていかなければならない。

コロナの状況によっては、例大祭が今後しばらくどうなるかわからない状態が続くかもしれない。コロナ感染が収束に向かわないと今後も例大祭の三匹獅子舞や太々神楽が開催できない状況が続くこともありえるだろう。もしそうだとすれば、伝統芸能の広報活動と鑑賞ツアーの企画自体、変えていかないといけないかもしれない。「伝統芸能のPR事業」にこだわらずに、コロナ禍でも実施可能な企画で事業計画を立てたほうがよいという判断も視野に入れておきたい。

今年度、何度もオンライン・ミーティングを開催させていただいたが、毎回お付き合いいただいた「やってみっ会」会長の新田昭悟氏、副会長の三浦隆一氏、いつも学生と連携してくださっている佐々木正和氏、テラス石森でオンライン・ミーティングをセッティングしていただいている一般社団法人 Switch スタッフで田村市地域おこし協力隊の中山真波さん、そして2017年度田村市総務部協働まちづくり課にいた当時からずっと私たちの活動の場を整えてくださっている鈴木俊栄氏には、本当にお世話になった。この場をお借りして御礼をも申し上げたい。

